

＜蟹ヶ谷古墳群と古城址について＞（補足）

蟹ヶ谷古墳群は、高津区蟹ヶ谷の神庭特別緑地保全地区（神庭緑地）の中にある6～7世紀頃の古墳群で、3基の古墳があります。そのうち2基は円墳ですが、1基は市内で現存する唯一の前方後円墳であることがわかりました。

川崎市では、多摩川流域遺跡群研究会（専修大学・日本大学）と連携して5年計画で蟹ヶ谷古墳群の調査研究を行い、川崎市の古代史の解説に取り組んでいます。（川崎市HPの文化財ニュースより）

また、この緑地は、井田城の西出丸ともいうべき曲輪があった場所と伝えられている。（下記参照）



←神庭緑地に残る土塁

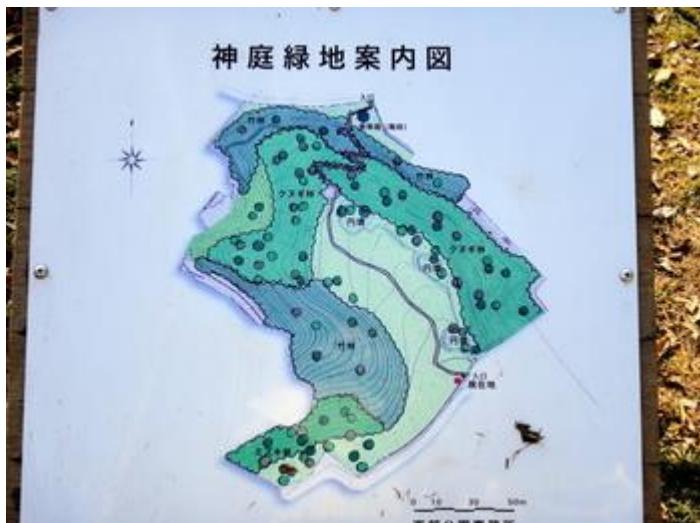
井田城（神奈川県川崎市）

（[\[古城めぐり（神奈川）\]](#)記事より転載）

井田城は、小田原北条氏の家臣中田加賀守が築いたと伝えられる城である。しかしその歴史は不明である。また中田加賀守については、[矢上城](#)の項で記載する。（矢上城は次ページ参照）

井田城は、中田加賀守の館があったという矢上城の北西約2kmの地点に位置し、矢上川南岸に望む比高30m程の舌状台地の先端に築かれている。現在は、城域の大半は中原養護学校の敷地となり破壊されている。しかし西出丸とも言うべき曲輪が、学校敷地の北西側に伸びる台地上に残っている。ここは神庭緑地という公園となり、内部は畠と緑地となっている。この公園の北辺には、40m程の等間隔で3基の円墳があり、この円墳をつなぐように高さ2m程の立派な土塁が100m近くに渡って残っている。おそらく円墳を櫓台として活用したものだろう。一方、公園の南辺には溝状の構造があり、耕地化による改変が疑われるものの、空堀跡の可能性もある。この西出丸の先端には、藪ではっきりしないものの腰曲輪らしい平場もあったようだ。主郭が中原養護学校の部分だったとすると、かなり広い城だったようである。一部ではあるが思いの外に遺構が良好に残っていたことになる。

神庭緑地の案内図





←堀切跡とされる通路

矢上城は、日本城郭大系では中田加賀守館と記載され、小田原北条氏の家臣で小机衆に属する中田加賀守の居城と伝えられている。中田加賀守は大身だったらしく、[井田城](#)など幾つかの城を有し、3万石の采邑を領していた様である。その歴史は必ずしも定かではないが、1590年の小田原の役で、[小田原](#)落城の際に没したと言う。

矢上城は、日吉の慶應義塾高校の敷地東部にある宮ノ台と呼ばれる比高20m程の台地上に位置している。現在は野球場やアーチェリー場などに変貌し、城跡の直下を東海道新幹線が貫通し、遺構はほとんど湮滅している。ただアーチェリー場脇には、「保福寺開基 中田加賀守累代墳墓之地」と刻まれた石碑が土壇の上に建っている。この土壇とアーチェリー場の間の一段低い通路が、日本城郭大系に拠れば堀切跡のことである。また土壇の部分は「ほんやしき」と称していた様である。ただ現状見る限りでは、いずれも遺構とは俄には判断しがたい。その他、アーチェリー場から西側は学校敷地で進入不可能なため、遺構の有無は確認できなかった。尚、城跡の西側下方には石碑への参道が整備され、更に西側には中田加賀守が開基とされる保福寺がある。歴史の闇に埋もれた北条氏家臣の歴史がここにも眠っている。

古墳群と井田城曲輪の場所



矢上城の場所